

TOTO

電気温水器
湯ぽっと REW-Fシリーズ
REW03 壁掛型

1 安全上の注意

安全のために必ずお守りください

取付工事の前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。この施工説明書では、製品を正しく取り付けていただき、使用者への危害や財産への損害および工事者への危険を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示は、つぎのようになっています。内容をよく理解して正しく取り付けてください。

表 示	意 味
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示についてはつぎの意味があります。

絵表示	意 味	絵表示	意 味	絵表示	意 味
	一般的な禁止		アースを接続せよ		必ず実行

取付工事完了後、施工説明書に記載の「試運転」にしたがって各部の点検を行い器具のガタつきや漏電・水漏れなど安全上の不具合がないことを確かめてください。

製品に同梱されている「取扱説明書（保証書付）」は、使用者に製品を正しく安全に使用していただくための重要な書類です。紛失したり汚れたりしないように大切に保管し、工事完了後、使用者または建築工事責任者にお渡しください。なお、保証書には必要事項を必ずご記入ください。

⚠ 警告

	分解禁止	修理技術者以外の方は、この説明書に記載された項目以外は絶対に分解・修理・改造は行わない（感電や火災の原因になります。）
	禁 止	指定する電源以外では使用しない（ヒーターの断線・火災などの原因になります。）
		電源コードの加工（切断・継ぎ足し）を行わない（感電・火災の原因になります。）
		屋内用のため、屋外には設置しない（感電や故障の原因になります。）
		コードを乱暴に扱ったり、ガタついているコンセントに差し込まない（火災の原因になります。）
	風呂シャワーなど水場での使用禁止	水・油・洗剤などがかからない位置に電源プラグ用のコンセントを設ける（感電の原因になります。）
		水がかかったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには使用しない（感電や故障の原因になります。）
	必ずアース線を接続せよ	電気工事は、関連する法令、法規にしたがって必ず「有資格者（電気工事士）」が行い、アース（D種接地工事100Ω以下）工事を行う また、漏電遮断器を取り付ける （誤った工事を行うと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。）

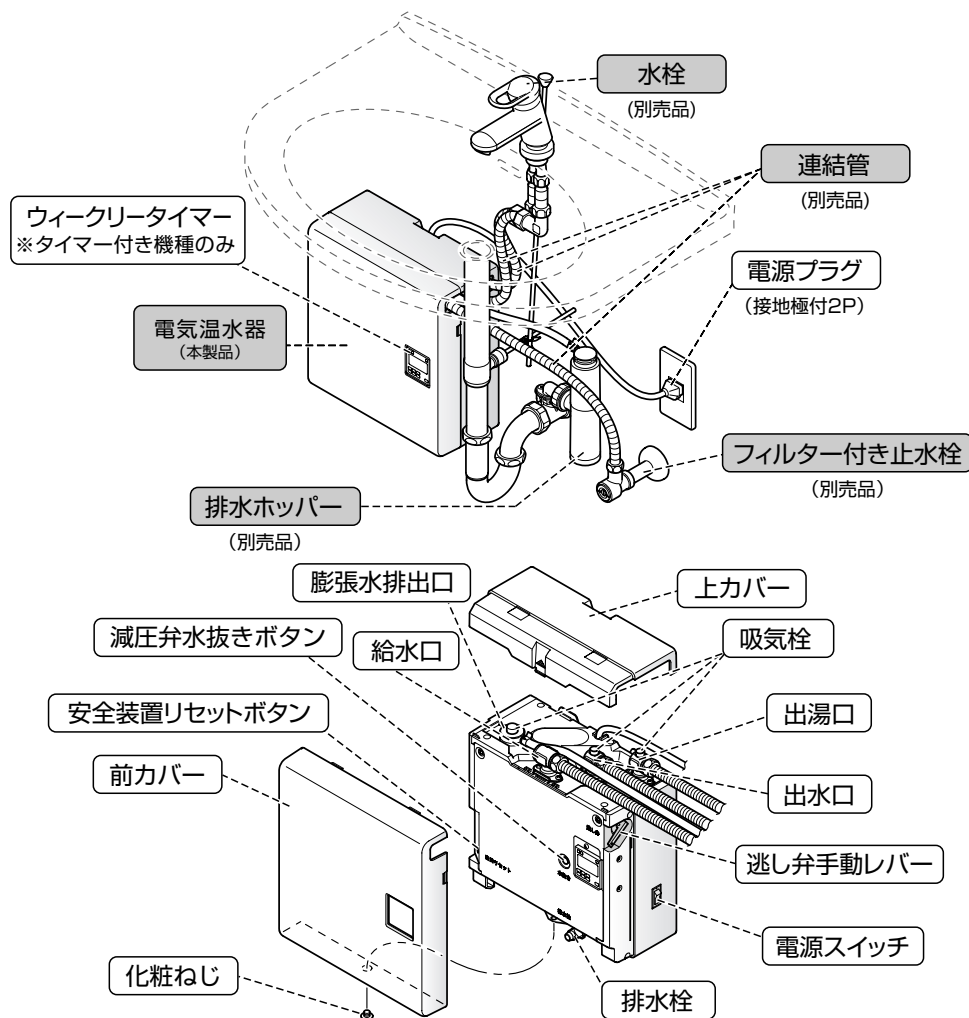
⚠ 注意

	禁 止	タンクが空のときは、絶対に電源スイッチを入れない（空焚きとなり、故障や事故の原因になります。）
		水道水以外は、通水しない（井戸水などを通水すると腐食などにより水漏れするおそれがあります。）
		製品に強い力や衝撃を与えない（故障や水漏れの原因になります。）
	必ず実行	給水口に接続する前に必ず、配管内のゴミなどを取り除くため止水栓を開けバケツ2杯（約20L）程度の水を捨てる（フィルターを通ったゴミが機器内に入り故障や水漏れの原因になります。）
		凍結のおそれがある場合は、電源プラグを抜いてタンク内の湯を抜く「13 機器内の水抜き」を参照（凍結破損し、水漏れのおそれがあります。）
		必ず連結管内の水抜きがスムーズにできる勾配で取り付ける（凍結した場合、破損し水漏れするおそれがあります。）
		水抜きを行うときは、必ず電源スイッチを「切」にする（空焚きとなり、故障・やけどの原因になります。）
		フィルター付き止水栓の掃除をする際は、いきなりフィルターふたを緩めずに、止水栓を閉めてから行う（水が噴き出して、家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。）
	必ず実行	設置する際は必ず天面を上にして水平に取り付ける（天面を上にしらない場合、高温の湯が出湯され、やけどのおそれがあります。）

おねがい

- 給水圧力は0.05～0.75MPa（自動水栓と接続する場合は0.1～0.75MPa）です。
この圧力の範囲内でご使用ください。（0.05MPa未満で使用すると流量が少なくなります。）
- 給水管にはフレキシブル管をご使用ください。
（銅管などで接続されると、シール剤などが内部に入り動作不良を起こす場合があります。）
- 必ずフィルター付き止水栓（必要別売品）を取り付けてください。
- 取扱説明書の保証書に、お買い上げ店または工事店名およびお取り付け日を必ず記入してください。
- 空焚き、施工上の不具合は当社では、責任を負いかねます。万一施工上に起因する不都合が生じた場合は、貴店の保証規定によって修理していただくようお願いいたします。

2 各部の名称



3 部品の確認

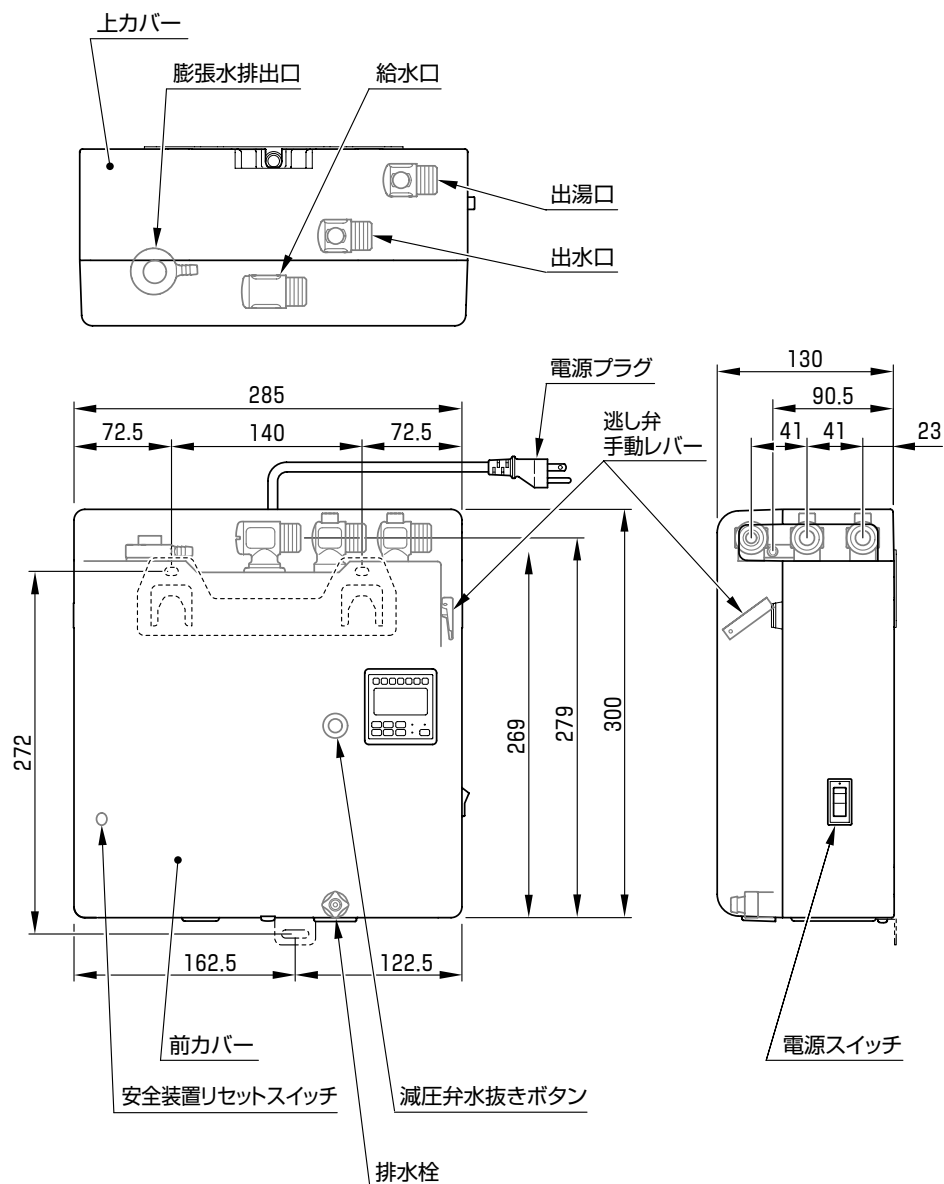
施工前に必ず部品を確認してください。

①電気温水器本体	②水抜きチューブ、取扱説明書（保証書付）、 施工説明書	③取付金具類
	 L=300mm お客様にお渡しください	木ねじ (φ5.1×32) ×3 タッピンねじ (φ4×8) ×1 取付金具 底部固定金具

4 仕様

機種品番		REW03E1FA	REW03E1F1A
貯湯量		約3L	
定格	電圧	単相100V	
	周波数	50/60Hz	
	消費電力	0.6kW	
給水方式		先止め式（減圧弁・逃し弁内蔵）	
出湯温度		約36℃（給水温度が5℃～30℃のとき：約30℃～40℃、混合バルブ内蔵）	
主要部品	温度調節器	バイメタル式	
	タイマー	ウィークリータイマー（停電保証機能付き）	—
	ヒーター	シーズヒーター	
	減圧弁	設定値：0.08MPa	
	逃し弁	吹始め圧力：0.095MPa 吹止まり圧力：0.087MPa以上	
安全装置	温度過昇防止器	手動復帰式バイメタル	
	アース	アース付き電源プラグ	
製品寸法		幅285mm×奥行130mm×高さ300mm	
電源プラグ		差込型 接地極付2P	
製品質量（満水時質量）		約7kg（約10kg）	
電源コード		0.7m	
使用条件	使用環境温度	1℃～40℃	
	使用水	水道水	
	使用水圧	0.05～0.75MPa （自動水栓との接続の場合 0.1～0.75MPa）	

5 寸法図

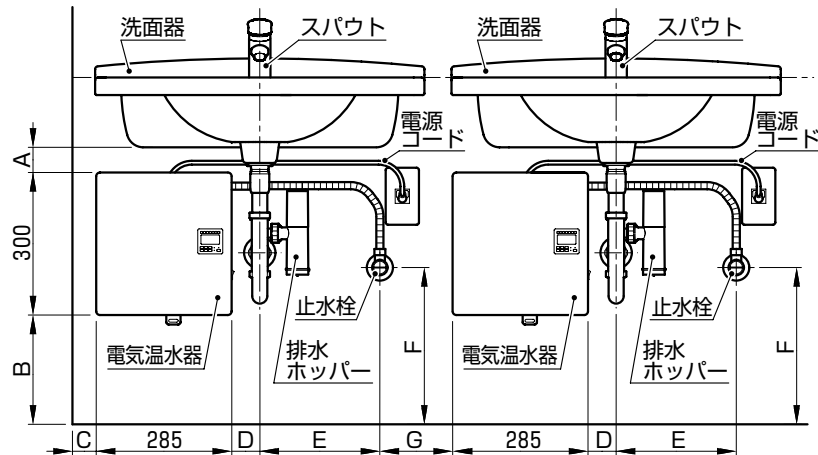


6 別売品一覧

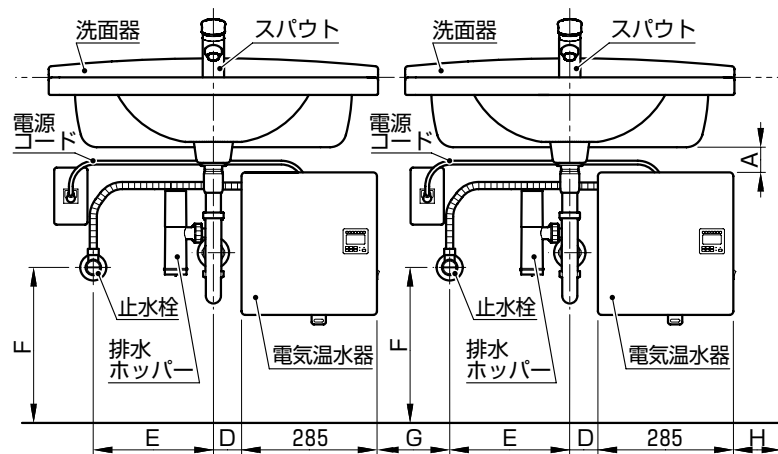
品 名		品 番	備 考
排水 ホッパー	密閉式	RHE97H-25	手洗器用（排水金具φ25用）
		RHE97H-32	洗面器用（排水金具φ32用）
		RHE97H-38	洗面器用（排水金具φ38用）
	開放式	RHE22H-32	洗面器用（排水金具φ32用）
排水ホッパー延長ホース		RHE660	排水ホッパーの長さ延長用
ホッパー継手ユニット		RHE661	給水ホッパーの新旧交換時などに使用 （塩ビ管30用）
		RHE662	排水ホッパーの新旧交換時などに使用 （φ32用）
連結管		RHE436-20	L=200mm
		RHE436-30	L=300mm
		RHE436-40	L=400mm
		RHE436-50	L=500mm
		RHE436-60	L=600mm
		TN65LX75	L=750mm
		RHE140	L=850mm
エルボ		RHE437	シングルレバー水栓（シャワータイプ除く） との接続に使用
水抜きエルボ		RHE621	連結部が逆勾配になる場合に使用
止水栓	アングル形	TL347C	フィルター付き（壁給水用）
		TL347C1	フィルター付き（床給水用）
	ストレート形	TL348C	フィルター付き（一般地用）
		TL348CVU	フィルター付き（寒冷地用）
接続口キャップ		TH651	ふさぎふた（1個入）
（自動水栓）取付用脚		TN74-2RX	自動水栓固定用

7 標準施工図

排水心の左側設置（標準設置）



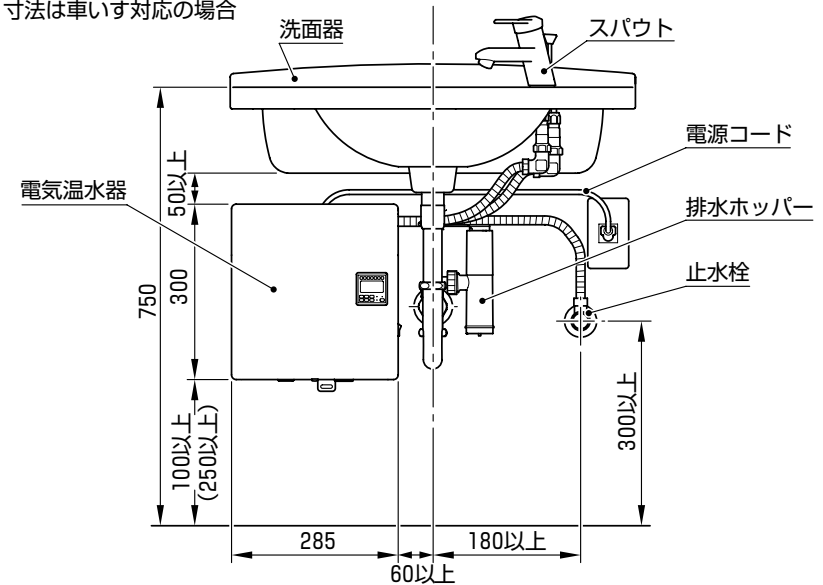
排水心の右側設置（標準設置）



- A寸法: 50以上…施工時、メンテナンス時に上面カバーを外すために必要な寸法
(洗面器下端から電気温水器天面までの距離)
- B寸法: 100以上…メンテナンス時、製品下部に付いているビスを外すために必要な寸法
(車いす対応時は、250以上)
- C寸法: 30以上…施工時、メンテナンス時に必要な寸法
- D寸法: 110以上…施工時、メンテナンス時に必要な寸法
ただし、L270洗面器に取り付ける場合は60以上(右図設置例参照)
- E寸法: 180以上…排水ホッパー取り付けに必要な排水心からの寸法
- F寸法: 300以上
- G寸法: 45以上…止水栓の開閉ができる寸法
- H寸法: 150以上…メンテナンス時に必要な寸法

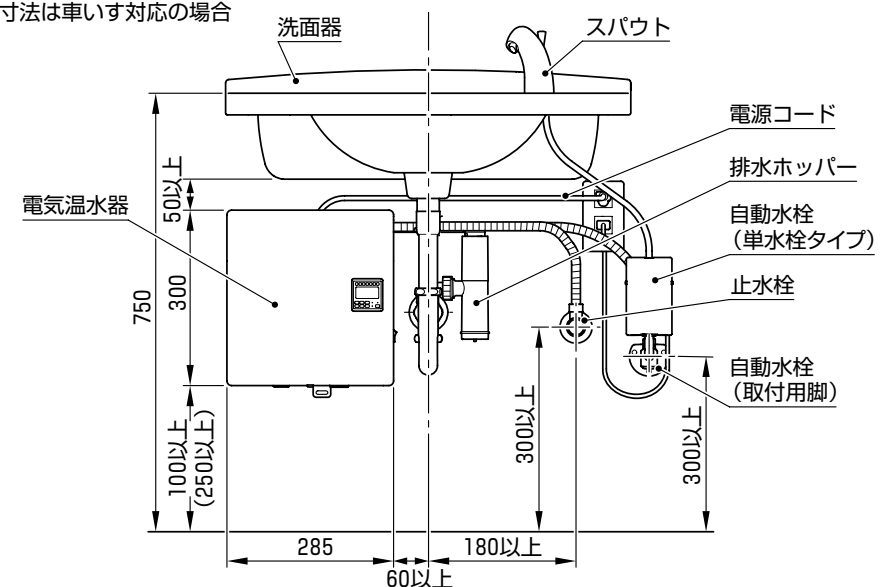
【設置例（シングルレバー水栓の場合）】（洗面器L270）

() 寸法は車いす対応の場合



【設置例（自動水栓の場合）】（洗面器L270）

() 寸法は車いす対応の場合



※REW-Fは適温出湯（混合バルブ内蔵）なので自動水栓は単水栓タイプを取付けてください。

8 電気温水器本体の設置



屋内用のため、屋外には設置しない
(故障・感電の原因になります。)



水がかかったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには設置しない
(故障・感電の原因になります。)

おねがい

- 空焚きの原因となりますのでタンクへの給水が完了するまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
(万が一、空焚きさせた場合にはP15の空焚きリセット方法を参照ください。)
- 湯の勢いが弱くなりますので、配管途中で他の器具などを取り付けないでください。

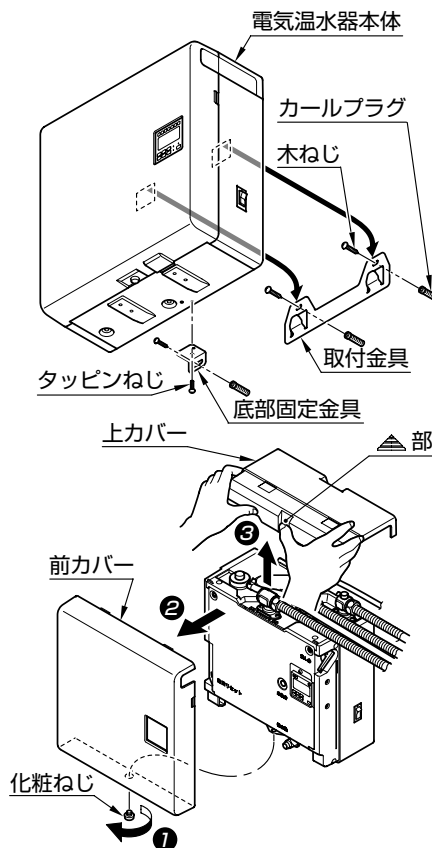
下図の要領で電気温水器本体を設置してください。

注意

電気温水器本体を床に直置きすると、化粧カバーに傷が付くおそれがあります。
梱包の緩衝材を床に敷くなどして作業を行ってください。

1) タイルまたはコンクリート壁に取り付ける場合

- ①ビス穴位置に下穴を開けカールプラグ(現場手配)を打ち込みます。
※カールプラグは木ねじ(φ5.1×32)にあうものを手配してください。
- ②取付金具を固定位置に合わせて木ねじ2本でしっかり固定します。
- ③電気温水器本体に底部固定金具をタッピンねじ1本で固定します。
- ④取付金具へ電気温水器本体を引っ掛け、底部固定金具を木ねじ1本でしっかり固定します。
※本体が水平になるように取り付けてください。
- ⑤連結管・排水ホースの接続準備のため、前カバーと上カバーを取り外してください。(①電気温水器本体下の化粧ねじ(1カ所)取り外し、②前カバーの取っ手を手前に引いてください。③上カバーは、正面の△部を押し、持ち上げて取り外してください。)



2) 木製の壁材に取り付ける場合

製品満水時の質量(約10kg)に耐えうる構造(構造用木材の厚さが30mm以上)であることを確認し、固定金具を木ねじ2本で固定してください。以降の手順は上記1)の③～⑤と同様です。

9 連結管及び排水ホッパーホースの取り付け



- 電気温水器と止水栓の接続はフレキ管を使用する
(鋼管などで接続するとシール剤などが内部に入り作動不良を起こす場合があります。)
- 給水配管中のゴミを排出するため給水口に給水配管を接続する前に、必ず止水栓を開けバケツ2杯(約20L)程度の水を捨ててください。
[内蔵しているフィルターを通ったゴミが機器内に入り故障や水漏れの原因になります。]

- 建築躯体側配管の配管接着剤が乾燥していない状態で電気温水器を取り付けしないでください。
[接着剤が乾いていない状態で湯を通すと湯が臭うことがあります。]
[必ず接着剤が乾いていることを確認してから取り付けてください。]

① 連結管を電気温水器に接続してください。

必ず、出湯口▶出水口▶給水口の順に接続してください。

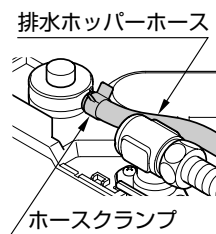
② 排水ホッパーホースを膨張水排出口に差し込んでください。

③ 水栓(別売品)および止水栓(別売品)に連結管を接続してください。

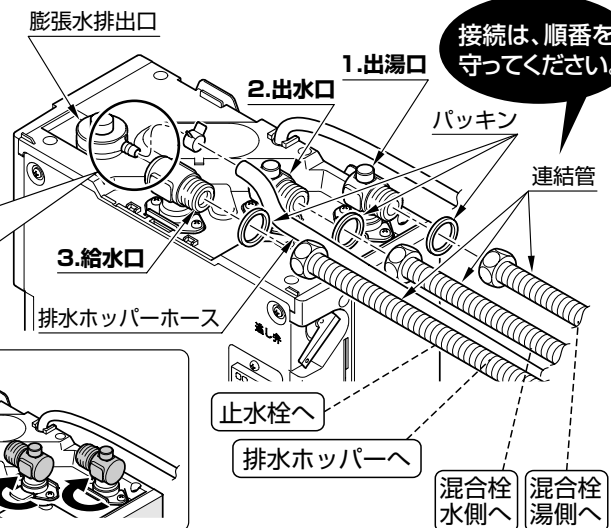
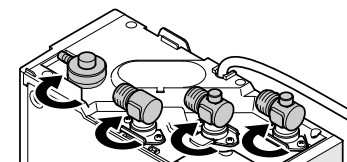
※水栓の取付方法は、混合栓に同梱の「施工説明書」を参照してください。

- 混合栓水側への給水配管は、必ず電気温水器の出水口より接続してください。
(減圧弁の故障の原因になります。)

- ホースを根元まで差し込む
- ホースクランプで固定する



※ 配管を左に接続する場合は、本体接続口を回転させて取り付けてください。



注意

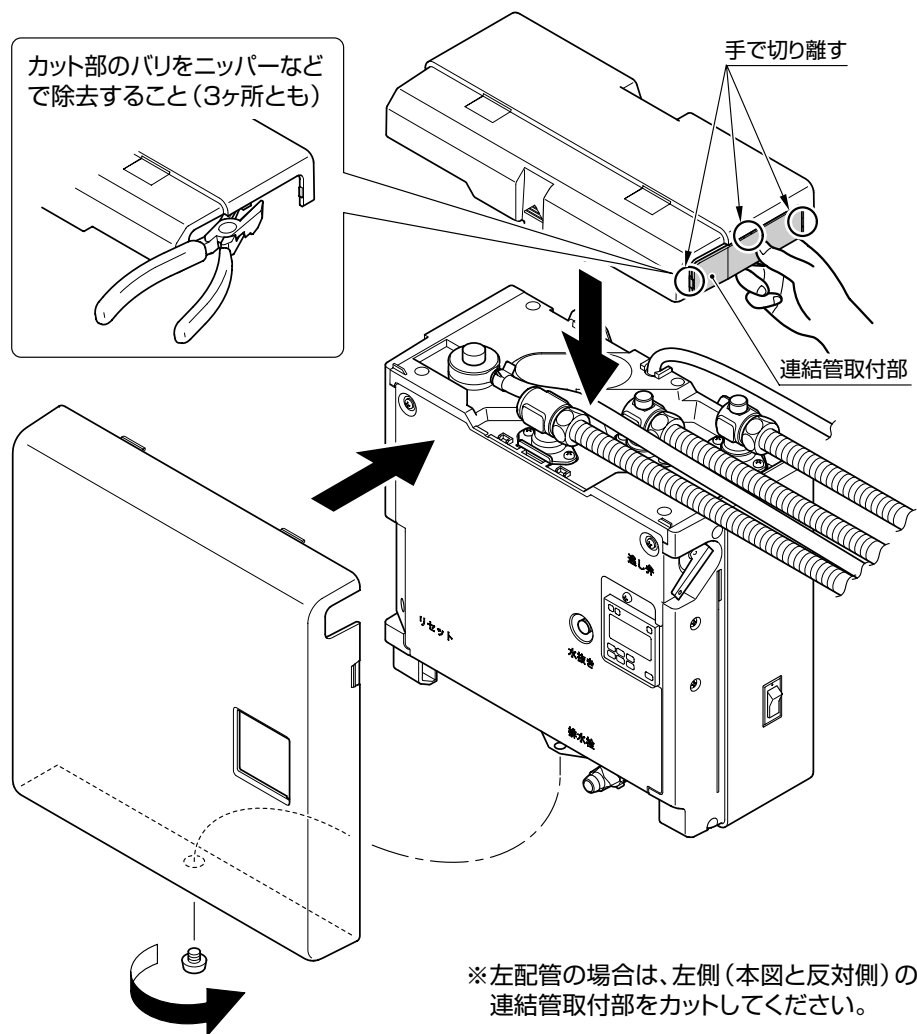
- 排水ホッパーホース差し込み時には工具を使用しない。
(工具を使用すると排水ホッパーホースにキズが入り、水漏れの原因となります。)
- 連結管および排水ホッパーホースは、極端に折らない。
(R40mm以上は確保してください。)

R40mm以上

9 連結管及び排水ホッパーホースの取り付け

上カバーの連結管取り出し部分を切り離してください。
上カバー、前カバーを取り付け、化粧ねじで前カバーを固定してください。

<右配管の場合>



注意

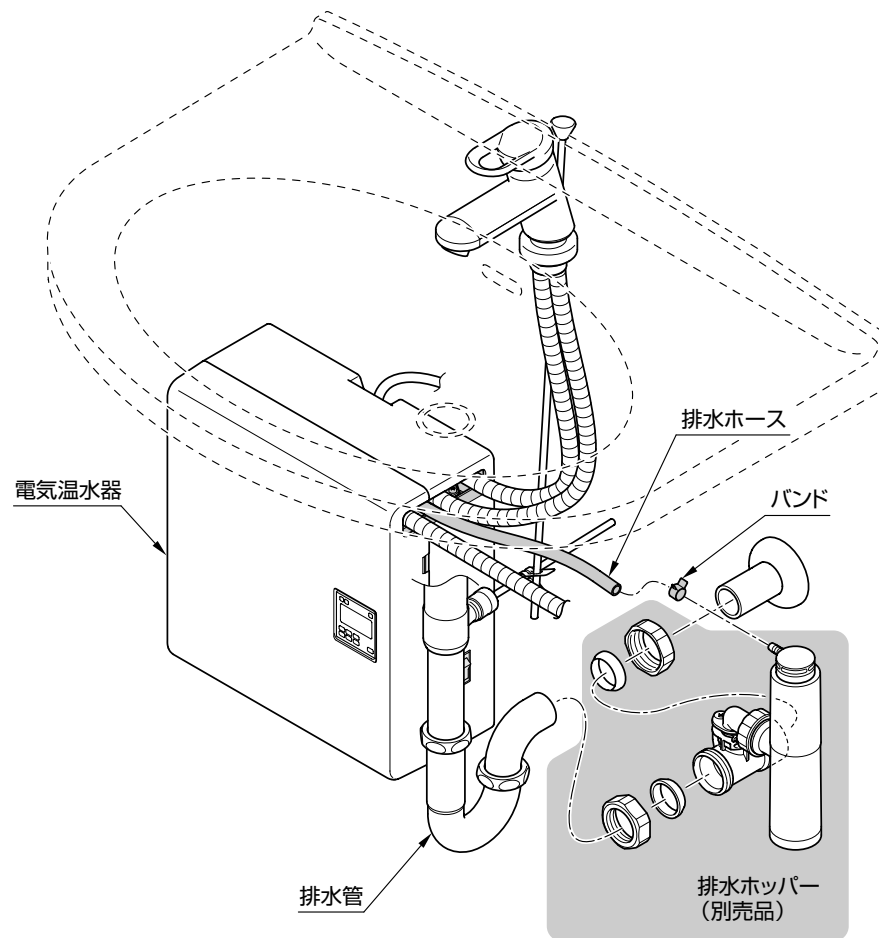
- ・上カバーに傷をつけないよう注意してカットすること。
- ・ニッパーなどの工具でけがをしないよう注意すること。

10 排水ホッパー(別売品)の取り付け

下図の要領で排水ホッパー(別売品)を電気温水器本体の排水ホースに接続してください。

※排水ホッパーは必ず、電気温水器1台につき、1個取り付けてください。

※排水ホッパーの取り付けは、排水ホッパーに同梱の「施工説明書」にしたがって取り付けてください。



11 電気工事



電気工事は、関連する法令、法規にしたがって必ず「有資格者（電気工事士）」が行い、アース（D種接地工事100Ω以下）工事を行う
また、漏電遮断器を取り付ける
（誤った工事を行うと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。）



消費電力、電源を銘板で確認し、必ずこれに適した配線を行う
（火災の原因になります。）

- 1) 電源が規定の電圧であることを確認してください。
※規定の電圧以外での使用は故障の原因となりますので、絶対におこなわないでください。
- 2) 接地付電源プラグになっていますので、必ず、対応したコンセント工事と電源容量を確保してください。

対応コンセント	電圧	消費電力
松下電工： WK3001W（露出型） WF3002EK（埋込み型）	単相 100V	0.6kW

12 試 運 転



タンクが空のときは絶対に電源プラグをコンセントに差し込まない
（空焚きとなり故障・やけどの原因になります。）

- ①電気温水器の電源プラグをコンセントから抜き電源スイッチが「切」になっていることを確認してください。
- ②止水栓に付属の開閉工具で止水栓を全開にしてください。

止水栓に付属の開閉工具で
中央凹部を左に回す

開ける

アングル形止水栓

入

切

切

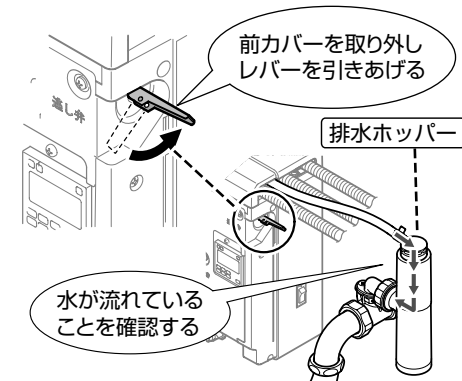
注意

給水管に塩ビ管を使用している場合は、接着剤が完全に乾いてから通水してください。
水から臭いがするおそれがあります。

- ③電気温水器の前力バーを取り外し、逃し弁手動レバーを引き上げてください。

- ④排水ホッパーから水が出はじめたら、逃し弁手動レバーを元に戻してください。
（水が出はじめまでの時間は1分以内が目安です。）

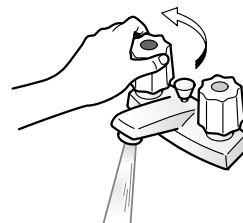
- ⑤以下にしたがい、水栓から安定して水が出ることを確認してください。
（安定して水が出れば、タンク内は満水です。）



- 2ハンドル混合栓の場合は、給水ハンドルを閉め、給湯ハンドルを全開にする
- シングルレバー混合栓の場合は、レバーを湯側いっぱいにする
- 自動水栓の場合は、スパウトのセンサー部に手を近づけセンサーを作動させる

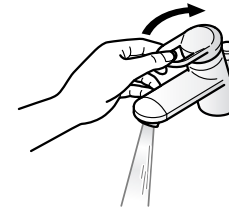
2ハンドル混合栓の場合

湯側を全開にする



シングルレバー混合栓

湯側にする



自動水栓の場合

センサーを
作動させる



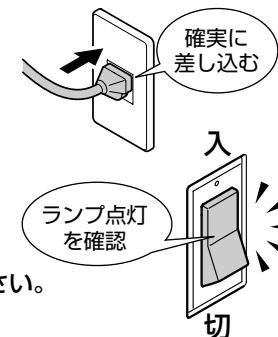
- ⑥配管接続部に水漏れがないか確認してください。

※上カバーを外して確認してください。

- ⑦タンクが満水になったことを確認し、電気温水器の電源プラグをコンセントの根元まで確実に差し込んでください。
- ⑧タイマーを取扱説明書にしたがって設定してください。
- ⑨電源スイッチを「入」にし、ランプが点灯することを確認してください。

空焚き禁止!

タンクが満水になる前に
電源スイッチを「入」にしないでください。



- ⑩沸き上がると自動温度調節器が作動し、電源スイッチのランプが消灯します。
- ⑪電源スイッチを「切」にし、電源プラグを抜いてください。（ランプは消灯します。）

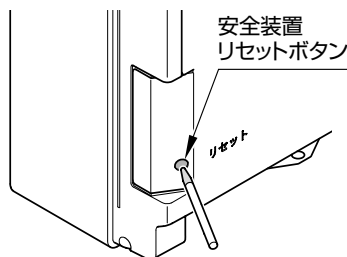
<沸き上がり時間の目安>

給 水 温 度	5℃(冬)	15℃(春・秋)	25℃(夏)
沸き上がり時間の目安	約24分	約19分	約14分

空焚きリセット方法

※万一空焚きした場合は、以下の手順で電気温水器内のリセットボタンを押して安全装置を解除してください。

- (1) 電源スイッチを「切」にする。
- (2) 電源プラグを抜く。
- (3) タンクに水を入れる。
- (4) 前カバーを取り外し、右図のリセットボタンをペン先などで押す。



●機器の減圧弁・逃し弁にゴミが付着すると、**膨張水排出口から微量の水が流れ続ける場合**があります。
そのような場合は以下の操作を行ってください。

- 1) 逃し弁レバーを立てて、膨張水排出口から1分ほど水を排出させ続けてください。
- 2) 逃し弁レバーを元に戻して、蛇口を閉めたときに、膨張水排出口から水が流れ続けなかったことを確認してください。
(注) 流れ続ける場合は上記操作を再度行ってください。

13 機器内の水抜き



凍結のおそれがある場合は、電源プラグを抜いてタンク内の湯を抜く
(凍結により破損し、水漏れするおそれがあります。)

〔水抜き手順〕

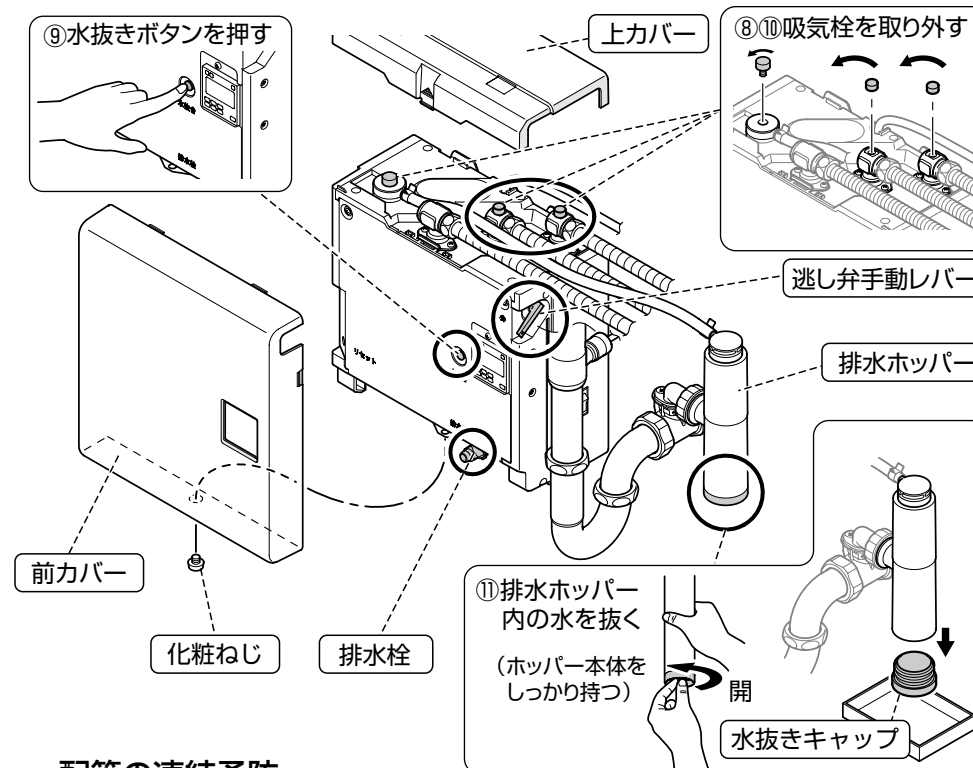
- ①電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ②混合栓の水側および湯側を開け、タンク内の湯が水になるまで完全に出し切ってください。
※タンク内に湯が残っているとやけどをするおそれがあります。
- ③本体下側の化粧ねじ(1本)を外し、前カバーを取り外してください。
- ④逃し弁手動レバーを約20秒程度引き上げ、排水ホッパーに水を流した後、レバーを元に戻してください。
- ⑤止水栓を閉めてください。
- ⑥1週間以上使用しない場合、水栓の水抜き栓を開け、水栓内の水を抜いてください。
(水抜き栓がある水栓の場合のみ)
※水栓の水抜き方法は、水栓の「取扱説明書」を参照ください。
- ⑦逃し弁手動レバーを再度引き上げてください。

- ⑧同梱の排水ホースを機器本体の排水栓に接続し、排水栓を開けて水を抜いてください。

注) 水を抜く際は、必ず受け皿などで受けてください。

【水が抜けにくい場合は以下の操作を実施ください】

- 上カバー正面の△部を押して上カバーを持ち上げて取り外し、膨張水排出口の吸気栓を開けるとタンク内の水が排出されます。
- ⑨減圧弁の水抜きボタンを押し、配管および減圧弁内の水を抜いてください。
- ⑩(1週間以上使用しない場合) 出湯口、給水口の吸気栓を開け、連結管内の水を抜いてください。
- ⑪(1週間以上使用しない場合) 排水ホッパーの水抜きキャップを外し、排水ホッパー内の水を抜いてください。
- ⑫水抜きが完了したら逃し弁手動レバーを元に戻し、吸気栓および排水ホッパーの水抜きキャップを閉めてください。
- ⑬上カバー、前カバーを取り付け、化粧ねじで前カバーを固定してください。
- ⑭(⑥で水栓の水抜き栓を開けた場合) 水栓の水抜き栓を閉めてください。



配管の凍結予防

- 電源スイッチが「入」の状態でも配管が凍結する場合は、必ず給水、出水、出湯側の各連結管と排水管に保温材または、ヒーターを巻いてください。